

活用事例報告書 平成 22 年度「百玉そろばん」

東京都	公立	(フリガナ)
学校名	S 小学校	担当者氏名 U 先生

4月のはじめより、第1学年の授業で活用しています。

以下、活用の内容です。

・数唱の練習

児童から見て右側に珠をすべて寄せて準備をします。「10の数唱」「10の逆唱」と教師が言い、それに続いて児童たちも声を揃えています。「せーの」の教師の合図で「1, 2, 3・・・」と全員で数唱をします。逆唱も同様に行います。「0」の学習をした後には、「0, 1, 2, 3・・・」と、「0」から言い始めました。

・数の階段

児童から見て右側に珠をすべて寄せて準備をします。教師が「数の階段」と言い、それに続いて児童たちも声を揃えて言います。教師の「せーの」の合図で1番上の段から順に「0, 1, 2, 3・・・」と数の階段を作っていきます。慣れてきたら段々とスピードを速くしていきました。

・2ことび

児童から見て右側に珠をすべて寄せて準備をします。教師が「2ことび」と言い、それに続いて児童たちも声を揃えて言います。教師の「せーの」の合図で「0, 2, 4・・・」と「10」まで数えます。同様にして逆唱も行います。

・数の合成・分解

数の階段の状態に準備をします。教師が「〇〇の合成(分解)」と言い、それに続いて児童たちも声を揃えて言います。「〇と〇で〇」と教師が言うと児童もそれに続いて「〇と〇で〇」と言いながら百珠をはじき、そろばんの中央に合成したものを作っていきます。(分解は「〇は〇と〇」というように中央にできているかたまりを分解していきます。)

以下の指導案のように毎回の授業のはじめに百珠そろばんを使って子供たちに声を出させ、指を動かせることで、これから勉強をするという意識をもたせるようにしています。

第1学年 算数科学習指導案

平成22年6月26日(土)2校時

S小学校 1年1組 26名

授業者: U先生

1. 単元名「10をつくろう」

2. 本時の授業

1) ねらい

足し算カードや10面体サイコロを使って、足し算について習熟する。

2) 本時の展開

	学習内容	手立て(●)・留意点(◇)・評価(☆)
導入	<p>○百玉そろばんで数唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10の順唱、逆唱 ・2ことび、2ことび逆唱 ・数の階段(10の順唱) ・8の合成・分解 ・10の合成・分解 	<p>●教師用の百玉そろばんを使用する。</p> <p>●わざと数唱を間違え、子供たちは気がついたら手を挙げる。</p> <p>☆声を出すとともに、百玉そろばんの操作を正しく行っている。</p>
展開①	<p>○たし算カードで習熟する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次々に出される足し算カードの和をなるべく早く答える。 ・隣どうしで足し算カードを使って問題を出し合う。 	<p>●足し算カードを次々に出していき、子供たち一人一人に順に答えさせる。</p> <p>●隣どうしで問題を出し合わせる。数分したら、問題を出す方と、答える方を交代する。</p> <p>☆足し算カードを見て、和を答えることができる。</p>
展開②	<p>○「あといくつで10かなすごろく」をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10面体さいころを転がし、出た目と合わせて「10」になる数だけコマを進めていく。 ・出た目と補数を書いて記録しながら進めていく。 	<p>●「50」で“あがり”になる場と10面体さいころを使用する。</p> <p>●ゲームの説明では、黒板に拡大したすごろくの様子を提示し、T1と児童1名が実際に行ってみせる。</p> <p>☆10の合成・分解を理解し、10の補数を探ることができる。</p>
まとめ	<p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>●本時の感想を聞く</p>